

国歌「君が代」

正調の「君が代」を知っていますか？

その前に、現在の我が国の「君が代」が国歌として法制化されるまでの変遷をたどってみよう。

明治 3年 薩摩藩 国歌制定を建議  
明治13年 天長節 「国歌」として言上し午前奏楽  
明治14年11月 「文部省小学唱歌」初編に「君が代」と題し収録  
(ただし国歌としてではない。)

一、君が代は ちよにやちよに さざれいしの 巖となりて  
こけのむすまで うごきなく 常磐かきわに かぎりもあらじ  
二、きみがよは 千尋の底の さざれいしの 鶺鴒のゐる磯と  
あらわるゝまで かぎりなき みよの栄えを ほぎたてまつる

明治15年 文部省「国歌」の研究  
明治18年11月 海軍省「日本国歌 君が代」を欧米の条約国へ送付公示  
(外国で「国歌」となる。)  
明治21年 各外国へ「君が代」を通報  
明治26年 8月 文部省「小学校において祝日大祭日の儀式を行う際、唱歌用に供する  
歌詞並びに楽譜」として告示

君が代は ちよにやちよに さざれいしの 巖となりて こけのむすまで

明治33年 文部省令 儀式の形式を規定 式の始めに「君が代」唱和  
(以後法制化することなく定着化)

平成11年 国旗とともに法制化される。(現行法につき各自紐解いてみられたい)

さてそこで、正調（ルーツ）「君が代」は次の通りだったようだ。

【和漢朗詠集】

君が代は 千代にやちよに さざれ石のいわほとなりて 苔のむすまで

【源頼政歌集】

君が代は 千尋の底の さざれ意思の鶺鴒のすむ磯と あらわるるまで  
また、特に和漢朗詠集の「君が代」が意味するところは次の通りだった。

「天皇在ます日本、その御徳を慕い平和を愛する国民みな、細石（さざれいし）が大きな岩となり、やがて美しい苔が生えるまで永久に栄えますように」

ついでに各国の国歌について触れてみよう。

各国の国歌もそれなりにその国の歴史、国民性から生じて制定されているので、特に歌詞に着目して、その国の伝統や文化に思いを馳せることは有意義であろう。

【英国】

神の救いあれ、我らが女王に幸せと勝利と栄光あれ

【仏国】

ゆけ祖国の民、時こそ至れり、正義の我等に旗ひるがえる  
聞かずや、野に山に敵は叫ぶを  
悪魔の如く敵は血に飢えたり

【米国】

みよや朝の薄明かりに、昏れ行く空に浮かぶ我らが旗、星条旗を  
弾丸ふる戦の庭に、頭上高くひるがえる

【中国】

起て奴隷となりたくない人々よ  
われらの血と肉をも築こう  
われらの新たな長城を

(参考；産経新聞11.4.30)

以 上